



令和7年度 東京都北区立王子桜中学校

令和8年3月 第12号

校長 阿久津 光生

〒114-0002

東京都北区王子2-7-1

Tel 03-5902-3155

王子桜だより

共生の精神に満ち、国際的視野に立ち、大きな夢の実現のために限りなく向上に努める人を育てる。

教育目標 **自主 創造 飛翔**

《2学年 都内めぐり校外学習に行ってきました！》

1月30日（金）都内めぐり校外学習に行ってきました。今回の2年生の校外学習は、実行委員会のみなさんが中心となって、「自律性・進取の心・団結～我ら渋沢～」という素晴らしいスローガンをたて、渋沢栄一翁のように1つの考えにとらわれず、周りを見て考え、より良い選択をしようという思いが込められています。こんな考えをしっかりとった2年生のみなさんは本当に素敵です！

そして今回の都内めぐりは、次の4つの目的を持って行われました。

- ① 班行動を通して生徒一人ひとりの主体性を養う。
- ② 渋沢栄一の生涯や思想に触れ、日本の近代化を果たした役割を学ぶ。
- ③ 実際の史跡や施設を見学することで、東京の歴史的背景や発展を体感する。
- ④ 班行動のルールを守り、公共の場でのマナーを意識し、規律ある行動をとる態度を身に着ける。

8時頃学校に班ごとに集合し荷物確認をして、まずは東京駅に向かい、チェックを済ませて班行動を開始しました。

【主な見学場所】東京駅・常盤橋公園（渋沢栄一像）・KABUTOONE・貨幣博物館・台東区下町ミュージアム・お札と切手の博物館・深川江戸資料館・東京商工会議所・兜町渋沢栄一邸宅跡（日証館）・東京証券取引所・第一国立銀行跡（現・みずほ銀行兜町支店）・兜神社等

生徒の皆さんは、寒い中、マナーやルールを守って一生懸命班行動をしておりました。本当にお疲れ様でした。



《1年生ビブリオバトルを開催しました！》

2月6日（金）ビブリオバトルを体育館で行いました。ビブリオバトルは、発表者が面白いと思った本を1人3分間（王桜ルール）で紹介し、参加者全員で「どの本が一番読みたくなったか？」を基準に投票して「チャンプ本」を決める、ゲーム的要素を取り入れた知的な書評合戦です。



クラスごとにビブリオバトルを行い、各クラスの代表の発表者（バトラー）として、1組田中さん、2組二木さん、3組辻さん、4組糸賀さんの4名のみなさんが出場しました。代表のみなさんは、自分が1番おすすめしたい本を自分の言葉で、とてもわかりやすくクイズなども取り入れて、熱意を持って発表してくれました。また、聞いているみなさんからもたくさんの質問が出されて、最後に Google フォームで投票をしました。4人のみなさん、とっても素敵な発表でした。投票の結果、4組の糸賀さんが最優秀賞、田中さん、二木さん、辻さんが優秀賞となり、賞状とメダルが授与されました。おめでとうございます。まるで冬季オリンピックの表彰のようでした！とってもアカデミックな雰囲気の中、1学年のみなさんで楽しんでいることが素敵だなあと改めて感じました。ビブリオバトルの運営にあたってくれた国語系のみなさん、学年の先生方に感謝いたします。素敵なビブリオバトルを見せていただき、ありがとうございました！



《王子東児童館で王桜吹奏楽部ミニ演奏会・王子小学校音楽朝会で演奏をしてくれました！》

2月7日（土）10：30より王子東児童館で吹奏楽部のみなさんがミニ演奏会を開催してくれました。王子東児童館では、パパやママと一緒に小さなお子さんが、吹奏楽部のお姉さんやお兄さんが演奏する曲をとても喜んでくれました。中には可愛い手で手拍子をしてくれたお子さんもいて、館内にいるみんなが温かい幸せな気持ちになりました！吹奏楽部のみなさんと顧問の佐々木先生は、つい先日アンサンブルコンテストが終わって休む間もなく、この日のために小さなお子さんでも喜んでくれる曲の練習に励んできました。本当にお疲れ様でした。保護者様には楽器搬入のために車を出していただき、いつもご支援、ご協力ありがとうございます。また、2月9日（月）朝、王子小学校体育館で王子桜中吹奏楽部演奏会を行いました！王子小学校の高学年のみなさんは、吹奏楽部のみなさんが演奏する曲をとても真剣に聴いてくれました。



《Welcome to Oji Sakura Junior High School》

2月12日（木）アメリカ合衆国カリフォルニア州にあるセブンヒルズスクールの生徒のみなさん4名と理事長先生のご主人が来校してくれました。朝8時過ぎに来校すると、2年生の生活委員さんがお出迎えをしてくれて、控え室に案内してくれました。1校時の Welcome Assembly では、2年生と体育館で対面して、セブンヒルズスクール実行委員会のみなさんが、企画・運営したとても素敵な歓迎会をしてくれました。あいさつ、スキットを取り入れた学校紹介、質問コーナー、お箸を使ったゲームなどいろんなバリエーションでとっても楽しかったです！その後、2年生の吹奏楽部のみなさんが、名探偵コナンのテーマソングを演奏してくれました。歓迎会は、最初から最後まで、オールイングリッシュで行われて、王桜生の英会話のレベルの高さが光りました。セブンヒルズ生も2年生全員が温かく迎えてくれていることにとっても喜んでいました。実行委員会のみなさんが放課後遅くまでリハーサルや最終打ち合わせを行ってくれたおかげで歓迎会は大成功となりました。生徒主体の歓迎会を作り上げ、セブンヒルズのみなさんや、2年生全員が貴重な体験となるようにと英語科の伊藤先生が、時間をかけてきめ細かにプロデュースしていただいたおかげでもあります。実行委員のみなさん、吹奏楽部のみなさん、ご指導いただいた先生方、本当にありがとうございました。

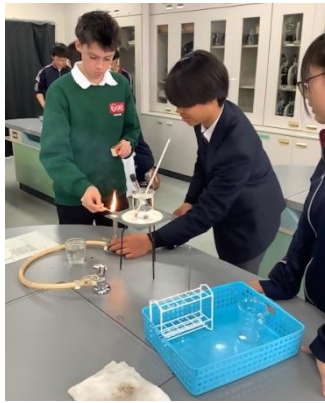


2校時から、セブンヒルズ生と一緒に授業を受けました。2校時は英語、3校時は国語/書道、4校時は理科でした！

教科の先生方、いろいろな工夫をしてくださいました！みんな楽しく授業を受けることができました！

美味しい給食を食べた後、飛鳥山博物館を見学に行きました。渋沢史料館は残念ながら休館日で、晩香廬、青淵文庫を外側から見学しました。

新紙幣になった渋沢栄一翁の日米親善のための人形の交流について学び、日米の親善交流の歴史の深さを学びました。人形の交流は、昭和に入り日米関係が悪化してきたことに心を痛めていた栄一翁に、「人形による国際交流で日米友好を図りたい」という依頼がアメリカから届いたことから始まりました。栄一翁は外務省などと連携して、「日本国際児童親善会」を組織し、アメリカ側から12,739体の「青い目の人形」を受け入れました。この人形は、全国各地の小学校に送られ、大歓迎を受けました。後に、返礼として58体の日本人形がアメリカに送られています。現在、「青い目の人形」は、埼玉県内の小学校などに12体（全国で270体余）保存されています。アメリカから贈られた「青い目の人形」を手にする栄一翁の写真を持って、セブンヒルズのみなさんと記念写真を撮りました。毎年行われているセブンヒルズスクールとの交流が北区で行われていることに、渋沢栄一翁もきっと喜んでいないでしょうか。まさに、歴史・文化の蓄積によって生み出された特別な場所ゲニウス・ロキ（Genius Loci）を活かしながら、将来、どんな時代になろうと、アメリカのセブンヒルズスクールとの交流を深めていくとともに、渋沢栄一翁のアントレプレナーシップが日米親善にまで及んで、今なお受け継がれていることを改めて認識しました。



《1年生 鎌倉校外事後学習発表会を行いました！》

2月13日（金）1年生は体育館で鎌倉校外事後学習発表会を行いました。1月23日（金）に鎌倉校外学習を行い、鶴岡八幡宮・長谷寺・高德院・佐助稲荷・銭洗弁財天・円覚寺・東慶寺・浄智寺・寿福寺・明月院・建長寺・鎌倉宮・頼朝の墓・英勝寺・円応寺・宝戒寺・光則寺・本覚寺・極楽寺・成就院・浄光寺・鎌倉歴史文化交流館・鶴岡ミュージアム・頼朝の墓・源氏山公園・荏柄天神社・甘縄神明神社・諏訪神社・小町通りなどを班行動でまわってきました。各班で見学する場所についてしっかり事前学習をして、今回の鎌倉校外学習に臨んだので、大成功に終わりました。さらに発表のために、事後学習もしっかりと行って、それぞれの班で学んだことや係ごとで行ってきたことなどが分かりやすく説明されていてとても良かったです。1年生のみなさん、本当にお疲れ様でした。

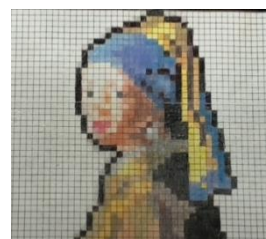
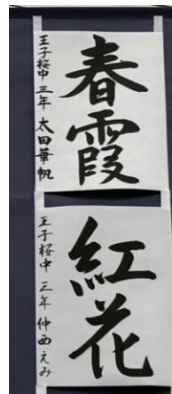


《祝 上野の東京都美術館で第75回東京都公立学校美術展覧会が開催されました》

東京都の公立小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校の児童・生徒の代表作品が、校種を越えて一堂に会する第75回東京都公立学校美術展覧会が上野の東京都美術館で2月14日（土）から18日（水）まで開催されました。

出品された7名のみなさん、おめでとうございます。優れた作品として選ばれました。本当に素晴らしいことです。

- 技術 2年生 遠山さん「アナログ情報のデジタル化」
- 美術 2年生 竹内さん 模写「真珠の耳飾りの少女」
- 書写 3年生 太田さん 「春霞」
- 3年生 仲西さん 「紅花」
- 家庭 3年生 小林さん 「どうぶつクッション」
- 3年生 吉澤さん 「どうぶつクッション」
- 3年生 中村(優)さん「どうぶつクッション」



《各種表彰をおこないました》

北区中学校展覧会に書写・美術・技術・家庭科で優れた作品を出品された80名の方々、おめでとうございます。3年生小島さんに代表で壇上に上がって表彰状を受け取っていただきました。本当におめでとうございます。

2月1日（日）に行われた北区中学校ソフトテニス冬季研修大会個人戦で屋宮・堀内ペアが第2位となりました。本当におめでとうございます。

北区小中学校校内書き初め展 金賞入賞者57名を代表して3年生の河原さんが壇上で表彰状をいただきました。本当におめでとうございます。

1月18日（日）男子バレー部は、獨協中学体育館で開催された第4ブロック男子1年生交流会において、準優勝を果たしました。本当におめでとうございます。

JOC ジュニアオリンピック第39回全国都道府県対抗中学バレーボール大会で東京選抜が準優勝し、そのアシストコーチとして小林剛先生が表彰されました。おめでとうございます。

1月20日（火）北区中学校書き初め席書会で2年生の坂口さんが、国語・書写研究部長賞を受賞しました。本当におめでとうございます。

1月25日（日）吹奏楽部 新人大会銀賞、アンサンブルコンテスト、ゴールド金賞をおめでとうございます。



偉大な科学者 高峰讓吉 その2

～消化酵素「タカジアスターゼ」の発見と製品化～

高峰讓吉は、ウイスキー製造業の前途が真っ暗になった時期でも、不屈の精神でさまざまな研究に専念しました。麹菌の持つ強力な酵素、ジアスターゼを別の形で活用できないか探っていました。そして、体内の胃袋でもこの酵素が作用し、食物のでんぷんを消化する働きがあることを突き止め、胃腸薬タカジアスターゼの工業生産法を研究助手の清水鐵吉の協力を得て完成させました。

タカジアスターゼは麦を製粉した時に出る「ふすま」（産業廃棄物）を活用して麹菌を培養するため、低コストで効率的に生産が可能となるメリットがありました。讓吉は完成からほどなく、1894年2月、タカジアスターゼの米国特許を申請し、9月に特許権を得ました。このタカジアスターゼにいち早く着目したのは、当時世界最大の製薬会社パーク・デイヴィス社の経営者の一人、ジョージ・デイヴィスでした。讓吉はパーク・デイヴィス社よりコンサルタント・エンジニアのオファーを受け、契約を交わします。また同時にタカジアスターゼの販売に関する契約も交わし、翌1895年には「TAKA-DIASTASE」という商標で粉末胃腸薬を主体とし、ほかに液剤、カプセルも含めて発売、たちまち幼児から大人まで使える人気商品となりました。「タカジアスターゼ」は、ほどなくアメリカ国内だけでなくヨーロッパでも人気商品となりました。ただし、讓吉は祖国日本に限っては、塩原又策（当時22歳）にその販売権を委ねました。これが三共商店の始まりであり、日本を代表する製薬企業、第一三共株式会社（現在）の原点となります。

この頃（今から130年ほど前）のアメリカやヨーロッパでは、乳幼児の消化不良は大変重要な問題でしたが、麦芽から抽出し煮詰めて製造していたジアスターゼ液が唯一の医薬でした。しかしそれは「水あめ」の状態、工場で製造するにも、瓶詰するにも、大変不便であり、医師も投薬に苦労していました。讓吉のタカジアスターゼは乾燥した粉末で、安定性、作業性において格段に優れ、管理や医師による投薬も大変容易であったので、たちまち世界中でヒット商品となったのです。

～三共商店（現・第一三共株式会社）のはじまり～

創業者塩原又策と讓吉の開発したタカジアスターゼの最初の出会いは、1898（明治31）年の春でした。前年、友人の大谷嘉兵衛と起ち上げた絹織物事業の業績が振るわず前途に不安を抱いていた塩原は、年末に渡米した西村庄太郎に、何か日本で事業化することができそうな新事業の探索を依頼していました。米国において、能勢辰五郎シカゴ領事の宴席に招かれた西村は、その席でタカジアスターゼの強力な効果を実際に体験しました。これこそ塩原の新事業になると直感した西村は、能勢領事の紹介状を手にニューヨーク在住の讓吉を訪問、友人の塩原に日本でのタカジアスターゼ販売権を与えてくれるよう頼み込みました。領事の紹介状もあり、西村の熱意も讓吉を動かしました。まだ面識のない塩原にタカジアスターゼを試売することを了承し、見本を西村に託しました。帰国した西村から海外におけるタカジアスターゼの評判を聞くとともに、見本で効き目を確かめた塩原は、タカジアスターゼの輸入販売事業に踏み出す決意をしたのです。



高峰讓吉博士自画像
協力：高峰讓吉博士研究会



左：水あめ状態のジアスターゼ 右：粉末状のタカジアスターゼ
協力：高峰讓吉博士研究会



保健委員会の代表のみなさんが第一三共株式会社の本社とお薬ミュージアムを見学してきました！

～「吾輩は猫である」に登場するタカジアスターゼ～

夏目漱石の「吾輩は猫である」では、苦沙弥先生と呼ばれる学者が、慢性的な胃痛と消化不良のために、書齋に閉じこもってタカジアスターゼを服用する姿が、猫の目を通してユーモラスに描かれています。この苦沙弥先生は、漱石自身がモデルと言われており、当時のベストセラー小説の中に薬の名前が登場したことは、タカジアスターゼが胃腸薬の代名詞として、いかに広く人々に愛用されていたかがよくわかります。

～世界初、アドレナリンの抽出・結晶化～

高峰譲吉には、もう一つ隠れた偉業があります。それは、アドレナリンの抽出・結晶化です。アドレナリンは動物の副腎（腎臓の隣にある臓器）から分泌されるホルモンの一種で、血圧を高める働きがあるために、今では外科手術や喘息の治療薬として使われています。

当時、まだその抽出には誰も成功しておらず、世界中の学者が競って研究をしていました。パーク・デイヴィス社はタカジアスターゼの開発で積み上げられた信頼より、「アドレナリンの純粋化」プロジェクトに参加するよう譲吉に要請しました。そして、1900年の夏、譲吉と研究助手の上中啓三は、1857年にヴェルピアンが高活性成分（後のアドレナリン）の単離（複雑な生物系組織からある物質を純粋に取り出すこと）に挑戦して以来、44年に渡り20人を超える研究者が失敗し続けた「アドレナリンの単離・結晶化」を、牛の副腎から抽出し、結晶の製造に成功したのです。これは、人類が初めて生命体から取り出した「ホルモン」の結晶となったのです。

こうして結晶化に成功した物質は、同年11月7日に、譲吉の友人、ウィルソン博士の提案により『アドレナリン』と命名されました。同時に譲吉はアメリカでの特許を申請し、翌年1月には英国にも申請しています。この発見により、一躍世界的な科学者となったのです。「アドレナリンが出た」という言葉は、興奮したときによく用いられ、みなさんも聞いたことがあると思います。その言葉は、明治の日本人科学者が作ったものなのです。そして、この偉大な科学者高峰譲吉もまた、渋沢栄一に大きな支援を受けた1人なのです。



協力 新潮文庫



アドレナリン
協力:高峰譲吉博士研究会